

# SAAJ 日本システム監査人協会報

## 第12回研究会開催さる

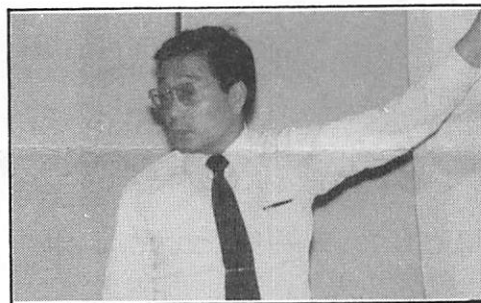
去る9月22日(土)、東京・虎ノ門の監査法人トーマツ会議室において、第12回会員研究会が開催された。今回は銜平和堂情報管理部長の磯貝明氏を講師にお迎えし、『カードシステムの事例研究』というテーマでお話いただいた。

磯貝氏は当協会のメンバーでもあり小売業の情報システムの専門家としての立場から新カードシステム導入に関して、パッケージソフトの購入をふくめた豊富な実例を交えてご説明いただき、たいへん示唆に富むものであった。

### <講演内容>

平和堂は昭和32年に設立され現在滋賀県を中心に61店舗を展開する業界第15位のスーパーマーケットである。小売業界は大店法改正による大手各社の参入により今後の激戦が予想されている。平和堂ではこの来たるべき激戦を勝ち抜くために89年9月新顧客管理システムを本番稼働させた。この新顧客管理システムは①POSシステム導入、②L-PACKシステム導入からなっており、このL-PACKシステムは丸井(M&C SYSTEMS)が提供しているパッケージソフトで、流通系のクレジットカード管理システムである。平和堂ではこのL-PACKシステムを基盤としてクレジットカードに購入金額の1%を割引くサービスを付加したHOP(HEIWADO ORIGINAL POINT)カードシステムを構築した。

HOPカードは小売業界の競争を勝ち抜くための戦略的カードであり、①顧客サービスの向上 ②謝恩券の廃止による合理化等を目指して



開発した。従来の割引サービスはレジで渡された謝恩券を顧客が所定の台紙に貼り付けて現金と交換する仕組みになっていた。これをクレジットカードと一体化し、レジで累計割引点数をカード上に記録することで顧客利便性の向上を図り、更にHOPカードをパーソナルカードと位置づけ店舗内のサービスカウンターで即時発行することでカードホルダーの大量獲得を実現した。(10万人⇒71万人)

システム開発上のポイントは①カードリーダーライターを導入してカード上の記録を主体としたこと ②開発期間・コスト等の観点から内容がブラックボックスのパッケージソフトを基盤ソフトとして採用したこと ③異機種(IBM-オムロン)間ネットワークを実現したこと ④カード忘れ等の例外処理に広く対応したこと等があげられる。

今後の課題として、当システムの稼働によって蓄積された顧客情報の戦略的な活用を検討しており、システム的には停電対策を導入中である。

以上磯貝氏の非常に分かりやすい講演を受け

て、受講者からはカード、カードライター等のセキュリティ対策、BANK-POSへの見直し等についての質問が相次いだ。

(No233 小坂志郎)

## 第4回総会の日程について

第4回総会の日程が以下のとおり決定したので連絡する。

なお総会の内容、議題については1月の会報にて連絡する。

日時：平成3年2月22日(金) 19:00～20:30

場所：東京・新宿 大成建設ホール

## TAC社アンケートについて (お礼)

TAC社より依頼されたシステム監査受験対策講座のアンケートをお願いしたところ、283名の皆様より回答をいただいた。

紙面を借りて御礼申し上げます。

## 第1回分科会発表会の日程について

平成元年6月よりスタートした3つの分科会も、そろそろまとめの時期に入り、各分科会ともラストスパートをかけている。

その成果発表会となる、第1回分科会発表会の日程が以下のとおり決定したので連絡する。

なお出欠および内容については別途連絡をする。

日時：平成3年1月19日(土) 14:00～17:00

場所：東京・永田町 社会文化会館

千代田区永田町1-8-1

TEL 03-592-7531

なお発表会の後、懇談会を予定している。

(17:00～18:30)

## パソコン通信倶楽部への参加の呼びかけ

第13号の会報にてパソコン通信倶楽部の発足

について連絡したが、その詳細が決定したので、連絡する。特に地方の方や忙しくて分科会や研究会に参加できない、と嘆いている人達は是非参加願いたい。

方法：パソコン通信 Nifty Surve における『ホームパーティ』方式とする

アクセス可能な者：当協会の会員のみとする

参加申込：蓮見 節夫氏 (MHE02226) あてメールで申し込む。会員名簿で確認のうえ、アクセスできるパスワードを折り返しメールで連絡する

開設費用：『ホームパーティ』の会費 月500円は協会負担とする。

また、参加者がもっと多勢になれば、『プライベートフォーラム』を開設することも検討する。

## 新入会員名簿

平成2年8月1日～平成2年9月末日までの入会者は6名。

平成2年9月末日現在で、371名となり、当面の目標400名まであと29名となった。

氏名	勤務先	登録番号
藤井 弘喜	(株)CSK 西部営業所	366
井上 悦雄	富士通エフアイピー大阪支社	367
細谷 哲史	センチュリーリサーチ(株)	368
辻 徳太郎	(株)CSK 採用教育センター	369
笹森 直登	富士通システム総研	370
清水 敏博	ウチダユニコム(株)	371

なお、前回の会報で掲載した新規会員のなかに、勤務先が抜けていたので、おわび方々訂正する。

No316 山内 良輝氏

勤務先 最高裁判所司法研修所

## システム監査の試験問題 (問題編)

10月21日(日)に実施されたシステム監査の論文の試験問題を掲載する。今回は問題のみ掲載するが、解答を作成された方は、会報担当までFAXまたは郵送にて送付願いたい。期限は平成3年3月末日とし、ひとりでも何問解答を作成してもかまわない。なお優秀な解答については当会報に掲載する。

### 注意事項(問題用紙より転記)

答案用紙の記入に当たっては、次の指示に従ってください。指示に従わない場合には、採点されません。

- (1) 受験番号欄  
受験番号を記入すること。
- (2) 生年月日欄  
受験票に記載されているとおりの生年月日を記入すること。
- (3) 選択欄  
選択した問題の問題番号を○印でかこむこと。
- (4) 解答欄
  - ① 解答は、要旨と本文に分けて記述すること。
  - ② 要旨は、論述の本文の概要を400字以内で記述すること。簡条書でもよいが、図、表、流れ図などは用いないこと。
  - ③ 本文は、2,000字～4,000字で記述し、文中に簡条書を含めることは差し支えないが、簡条書には収支しないこと。図、表、流れ図などを用いても差し支えない。
  - ④ 解答以外の記述に使用しないこと。
  - ⑤ 解答は、はっきりした字できれいに書くこと。読みにくい場合は、減点の対象となります。

### 問1 情報処理システムの開発部門の監査について

新しい情報処理システムを開発する際、監査部門は、企画・開発の全過程を監査するこ

とが必要とされる。また、稼働中のシステムの修正・機能追加などにおいても標準化・文書化の状況、対象システムのコントロール機能の充足状況など監査する項目が多い。

加えて、システムの設計者・プログラマなど開発関係者の不正防止を主眼とする監査も重要である。

あなたの実際の経験又は考えに基づいて、次の設問ア～ウに従って論述せよ。

設問ア あなたが現在従事している業務の概要と、情報処理システム又は監査業務に、あなたがどのような立場、役割でかかわってきたかを、800字以内で簡潔に述べよ。

設問イ システムの企画・開発・修正などを自社内で実施し、また、本番用のコンピュータに開発用の端末機を接続してテストも行うような開発環境の場合、システム開発関係者の不正防止を主眼とした監査項目を挙げ、その内容を述べよ。

設問ウ 設問イの監査を実施する場合の手順及び留意点を述べよ。

### 問2 情報処理システムの企画・開発業務の監査について

企業にとって、経営環境の変化及び市場動向に正しくとらえ、積極的な経営を展開していくことが必要である。したがって、情報処理システムの企画・開発に当たって、企業の経営戦略に即応したシステム作りを心がけることが求められているといえよう。

ユーザーニーズは、各ユーザー部門が企業の経営戦略に沿って合理的に活動するに当たって必要な情報を、情報処理システムから適時に適切な方法で提供されるよう求めているものである。

システム監査では、システムの企画業務の監査で留意すべき事項の一つに、ユーザーニーズ調査の対象、範囲、方法は適切かということが挙げられている。システム監査人は、情報処理部門が企画業務において、企業の経営戦略について十分な理解をした上で、各ユーザー部門の新システムについて具体的なニーズを正しくとらえているかどうかを明らかにすることとなる。

あなたが、情報処理システムの企画・開発業務を監査するものとして、あなたの実際の経験又は考え方に基づいて、次の設問ア〜ウに従って論述せよ。

設問ア あなたが現在従事している業務の概要と、情報処理システム又は監査業務に、あなたがどのような立場、役割でかかわってきたかを、800字以内で簡潔に述べよ。

設問イ システムの企画・開発が企業の経営戦略に即応して行われているかどうかを監査する場合に、ユーザーニーズの調査についての上記の留意点は具体的にどのような内容をもつことになるかについて述べよ。

設問ウ あなたが経営戦略に即応したシステムの企画・開発であるかどうかを明らかにするシステム監査を行うとき、企画業務におけるユーザーニーズの調査が適切であるかどうかを確かめるための監査の方法を述べよ。

### 問3 情報処理システムの運用部門の監査について

情報処理システムの発展に伴い、システムの運用部門が提供してきた従来のデータ処理サービスに加え、ワークステーションやホスト計算機に接続したパーソナルコンピュータをユーザが直接使って関連のデータベースを加工する、いわゆるエンドユーザコンピューティングが徐々に増加してきて、センタシステムの運用に種々の影響を与える場合がある。

運用部門は、本来、エンドユーザ部門及びシステム開発部門に対し、データ処理サービス、コンピュータリソースの要求を充足することを任務とするが、有限資源の適正運用の観点から、運用部門が取り扱うスケジュールされたジョブの生産性・効率性の追及と、エンドユーザコンピューティングに対するサービス提供とのジレンマに陥ることが多く、その調整には苦慮するところである。

このような状況下において、システム監査の面からみて、運用部門はエンドユーザ部門にどのように対処するのが妥当であるか。

あなたの実際の経験又は考え方に基づいて、次の設問ア〜ウに従って論述せよ。

設問ア あなたが現在従事している業務の概要と、情報処理システム又は監査業務に、あなたがどのような立場、役割でかかわってきたかを、800字以内で簡潔に述べよ。

設問イ エンドユーザコンピューティングのサービス向上と、運用部門の生産性・効率性の追及に関し、どのような考え方に基づいて対処するのが妥当であるかについて、あなたの見解を述べよ。

設問ウ エンドユーザコンピューティングについて、システム監査を実施する場合の着眼点を列挙し、その理由を述べよ。

### 問4 情報処理システムの運用における外部委託の監査について

情報処理システムの運用においては、外部委託が割合に多く利用されているが、中でもオペレーション業務では全面委託されるケースが多い。

情報処理システムの対象業務が幅広くなり、内容も複雑化するにつれて、安定した運用がますます重要になり、オペレーションには十分に注意を払う必要がある。オペレーションを外部要員に委託する場合、委託先の都合による要員の交替が多いなど、システムの安定稼働に影響を及ぼすようなケースも少なくない。

あなたが情報処理システムの運用に関する監査を行うとして、あなたの実際の経験又は考えに基づいて、次の設問ア〜ウに従って論述せよ。

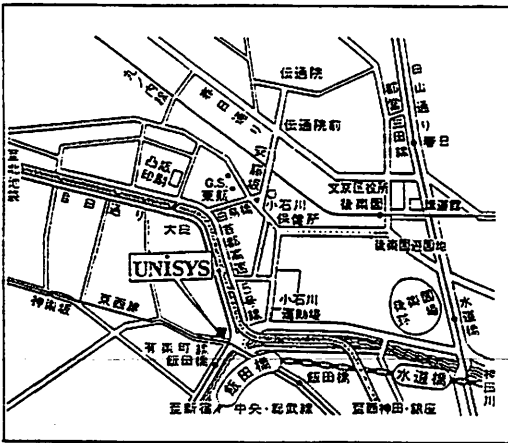
設問ア あなたが現在従事している業務の概要と、情報処理システム又は監査業務に、あなたがどのような立場、役割でかかわってきたかを、800字以内で簡潔に述べよ。

設問イ 社内で運用中のコンピュータのオペレーション業務を全面的に外部要員の委託に切り替える場合、どのような点に留意すべきについて述べよ。

設問ウ 外部要員の委託によるオペレーション業務を監査する場合のシステム監査のポイント及び監査方法について述べよ。

**第13回研究会のご案内**

1. 日時 11月28日(水) 18:30~20:30
2. 場所 東京・飯田橋 日本ユニシス(株)  
飯田橋東海ビル  
1Fセミナールーム
3. テーマ 「経営戦略と情報システム」  
S I Sに対する考え方からその具  
体的な構築方法まで
4. 講師 日本ユニシス(株)  
ビジネスコンサルティング室  
室長代理 卜部 正夫氏  
(経営情報学会幹事)
5. 参加費 会員 1,000円  
非会員 2,000円
6. 参加申込先  
(郵便またはFAXにて11月26日までに)  
〒108 港区芝浦4-13-23 MSビル  
監査法人トーマツ システム監査部  
川野 佳範  
FAX(03)457-1695  
TEL(03)457-7321



**事務局からのお知らせ**

**<会費振込みのお願い>**

本年度(平成2年1月1日~平成2年12月31日)の会費(正会員10,000円 準会員8,000円)を未納の方は、下記宛にお振込みください。

郵便振替口座	東京 1-352357
加入者名	日本システム監査人協会事務局
銀行振込口座	第一勧業銀行 北沢支店
	普通 1053488
口座人名	日本システム監査人協会 事務局 鈴木信夫

- ① 振込手数料は各自ご負担願います。
- ② 会費振込に際しては、必ず会員番号をご記入願います。
- ③ 請求書は発行しないことを原則としておりますが特に必要な方はお申し出下さい。

**<住所変更について>**

住所変更、所属変更等がございましたら、事務局へ書面でお知らせください。

**<会員の声 募集について>**

会員相互のコミュニケーションを図るため、『会員の声』を募集します。また、会報についてのご意見、ご要望もお寄せください。

この件については、会報担当宛に郵便、またはFAXでお送り下さい。

発行所 日本システム監査人協会  
 発行人 川野 佳範  
 事務局  
 〒157 東京都世田谷区砧1-10-11  
 N H K放送研修センター内 鈴木 信夫  
 TEL.03(415)7111(内631) FAX.03(415)1388  
 ※ご連絡はなるべく郵便または、FAXで  
 願います。

会報担当(ご投稿、ご意見、ご要望は下記まで)  
 長野 正己 東京海上火災保険財務企画部  
 TEL.03(285)1637 FAX.03(211)2430  
 小松原 拓 富士通 教育部  
 TEL.03(735)1111 FAX.03(730)1389  
 今井 純子 公認会計士今井純子事務所  
 TEL.03(992)9381 FAX.03(992)2450